

山口大学医学部附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山大病院だより

2015
6月号
vol.223



レポート

災害対策訓練を実施しました



「看護の日」記念行事にて

主な記事



就任のごあいさつ

病棟リレー

1病棟7階西

REPORT

レポート

突然の災害に備えて

災害対策訓練を実施しました

4月30日(木)及び5月1日(金)に、平成27年度災害対策訓練を実施しました。

この災害対策訓練は、平成23年3月の東日本大震災や平成26年8月に広島市の豪雨災害などを教訓に、災害発生時の患者さんの安全確認、病院機能維持、そして被災患者さんの受け入れまでを想定し実施しています。今回は山口県阿知須で震度6弱の地震が発生した想定で、入院患者さんの安全確認、建物・設備の被害確認、災害対策本部への情報集約までを行いました。

今年度から、職員が災害発生時に混乱せず適切な行動をとるために、「誰が」、「どこで」、「何をするか」という指令を示す「アクションカード」を作成しました。例えば、「病棟リダーナースが」「病棟で」「火災通報せよ」という大きな指令に、カードにはその指令を果たすための「火災報知器を押せ」「119に電話せよ」当直師長に電話せよなど小さな指令が載っています。「当たり前のこと」と思われるかもしれませんが、緊急時に必要なことを、もなく落ち着いて実行するために有効とされています。訓練では、このカードを使用し、各病棟で夜間の限られた職員数を想

対策本部



建物・設備の被害確認

定し、入院患者さんの安全確認を行いました。異なった役割のカードを一人ひとりが持ち実践することで、スムーズにそして組織的に実施することができました。また、このカードには完成形は無く、訓練を実施する度に反省を反映し改善されていきます。山口県内や近県で大規模災害が発生した際、本院は多数の重症患者さんの受け入れ病院として機能する必要があります。また、その役割は、高度救命救急センター、DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣病院、ドクターヘリの基地病院、山口県災害医療コーディネーターの派遣病院などさまざまです。今後も、いろいろな訓練を実施し、災害時のスムーズな医療提供の準備をしてまいります。



反省会



DMAT本部



看護部管理室



薬剤部での訓練

NEWS

災害医療コーディネーター委嘱式が行われました

4月27日(月)、山口県庁にて災害医療コーディネーター委嘱式が行われました。

「災害医療コーディネーター」とは、災害が発生した際に、県庁に登庁し、DMATなどの医療チームの派遣や医療救護活動等に関する助言や傷病者の受け入れ調整などを行う医療従事者のことで、本年度より新たに設置されました。

県内では8人が委嘱されており、本院からは、先進救急医療センターの鶴田良介教授(センター長)、小田泰崇准教授、藤田基助教が任命されました。



山口県健康福祉部長より委嘱状を手渡される鶴田教授

NEWS

防火教育・訓練を実施しました



消防署による講話

4月20日(月)に宇部市中央消防署のご指導ご協力の下、新規採用者及び転入者を主な対象とした防火教育・訓練を実施しました。坂井田医学部長(自衛消防団長)、田口病院長(自衛消防団副団長)をはじめ、看護部からは約100名、事務職員など合計約150名の参加がありました。

初めに、消防署による講話では「平成25年福岡の医院火災」を事例に、防火戸の閉鎖障害・初期消火の未実施等、現場図面を用いて詳しく説明がありました。参加者は「通報」「初期消火」「避難誘導」の重要性と「自分のところは自分で守る」という自主防災の原則を学ぶことができました。

その後、レスキューマットによる搬送、屋内消火栓の放水、消火器の操作を多くの参加者が体験し、防火意識を持つことができました。



屋内消火栓を使用した訓練



レスキューマットを使用した訓練



就任のごあいさつ



山口大学医学部附属病院
特命教授

黒川典枝

平成27年1月1日付で、山口大学医学部附属病院の特命教授を拝命しました。黒川典枝（くろかわみえ）と申します。医療人育成センターの副センター長と総合診療部の部長を併任いたします。皆様にご挨拶申し上げます。

私は昭和59年に山口大学を卒業し、内科学第二講座（現在の消化器病態内科学）に入局しました。沖田極先生（現名誉教授）のご指導のもと、肝臓の診療をライフワークとし、患者さんとともに肝臓と戦い続けて参りました。学会や研究会で多くの刺激を受けながら、山口県内の肝臓患者さんがトックラスの診療を受けら

れるよう、自身の診療技術を磨くとともに、後輩の育成にも力を注いできました。若い医師や医学生とともに仕事をすることはとても楽しく、約20年間山口大学に勤務しましたが、第二内科の病棟医長として過ごした8年余りは本当に貴重な体験でした。平成18年9月からは山口労災病院に勤務し、地域医療の最前線で、多くの職種の方々と丸となって診療したことも得がたい経験でした。

この度、ご縁があつてまた医学部附属病院に勤務することとなりました。医療人育成センターでは、副センター長として、医学部附属病院の医療人すべてのキャリア継続やスキルアップの支援を行つて参ります。特に、医学生・研修医・専攻医の皆様の種々の相談に対応できるよう、「ゆめくらぶ」という「よろず相談室」を開設いたしました。総合診療部の部長室が相談室となつていきますので、気軽に声をかけてください。

総合診療部の部長としては、「一般内科などの運営を行つて参ります。どの科に相談したらよいか判然としない患者さんは、ご相談ください。総合診療部は、医療面接・身体診察・診療録記載・臨床推論などの学生教育も担当していますので、強く優しい医師を育成することにもエネルギーを注ぎたいと思います。

以前から存じ上げているスタッフも多く、「おかえりなさい」と言っていただけける幸せを感じています。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。



山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学分野 教授

永野浩昭

3月1日付で、医学系研究科消化器腫瘍外科学分野教授を拝命いたしました。永野浩昭と申します。着任にあたり、山口大学附属病院の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、昭和36年に大阪市に生まれました。高校卒業までは大阪で過ごしましたが、岡山大学にお世話になり、卒業（昭和61年）後、大阪大学第二外科（現消化器外科）に入局しました。大阪大学附属病院、大阪府立成人病センターにおいて、癌外科さらには肝胆膵外科の基礎を学び、その後は移植研究を開始し、ラットやマウスを用いた肝移植・心移植などの実験を主に、ハイバード大学に3年間留学しました。平成9年に帰国後は、大阪大学で進行肝臓治療と肝移植の診療と研究に従事し、人工血管併用肝切除や生体部分肝移植、さらには脳死肝移植などの外科手術に専念してきました。そして、平成20年の講座・診療科再編後から今回の着任までは、大阪大学肝胆膵・移植外科の責任者（病院教授）として同領域の発展に努めました。

さて、山口大学に来てまず感じたことは、医師・看護師などの医療従事者のすべてが「真摯に医療に取り組んでいる」、そして、患者さんたちと「三位一体の医療をしっかりと行っている」、ということでした。消化器・腫瘍外科学講座は、附属病院での消化器外科と乳腺内分泌外科を担当します。外科手術は、患者さんにとって非常な侵襲をとまいますが、それは病気を治し命を守るためでもあります。そして、私たち外科医はそのためであれば逡巡なくメスをふるいます。そのときに、この病院であれば、術後の侵襲期に対する十分なCareとServiceを提供してくれるはず。その中でこそ、大学病院に求められる「先進医療の推進」ができるかと確信しております。

その一方で、昨今の外科医不足は何よりも喫緊の課題です。大学臨床講座のもう一つの社会責務は、これからの先生たちの可能性を十二分に発展させる「教育」にあります。この危機的状況に対して「外科専門教育プログラム」の確立に取り組んでいきます。そのためには、病院における、「若手外科医に対する愛情」と「質の高い臨床医教育の実践」は肝要です。そしてその土壌はすでにあると強く感じています。

山口大学病院の皆様にあたたかいご支援をよろしく申し上げます。



山口大学大学院医学系研究科
医療情報判断学分野 教授

石田 博

昨年12月1日付けで医学系研究科医療情報判断学分野教授ならびに附属病院医療情報部長を拝命しました石田博と申します。「医療情報部」なんて聞いたことがないと言う方も多いと思いますが、院内の診療に関わる情報システム(電子カルテシステム)を教官、看護師、技術職員、そして、多くが診療情報管理士、または、医療情報技術師の資格を有する事務職員で運用、管理している組織です。

私自身は、昭和58年に筑波大学を卒業後、川崎医大附属病院の総合診療部でプライマリケア医としての研修を受け、同部の講師、検査部講師を経て、2001年から本院の医療情報部に異動し、現在に至っています。実は、出身は福島県(会津)ではありませんが、研修医として働き出してから、指導医、上司はいずれも本学出身の先生ばかりであったことが異動のきっかけになっておりまして不思議な縁を感じております。

川崎医大では、一般的な臨床医としての視点から臨床的な判断に必要な診療情報の取得とそれらによる臨床推論に興味を持ち、検査情報の活用支援のシステム化等の仕事を続けておりました。本院に異動後も、コンピュータによる診療支援を念頭に病院業務の積極的な電子化を進め、処方や検査、

処置、手術などの依頼もカルテ記載や参照も全てコンピュータで行う、いわゆる電子カルテを2009年から運用しております。同時に放射線検査や心電図などの結果も全て電子化され、同様にコンピュータ画面で確認することができるようになっております。現在では、あらゆるカルテ情報がいつでも院内のどこからでも参照できるだけでなく、従来の手書きの紙カルテでは容易でなかった診療、研究、教育への情報活用がしかりとした個人情報保護の上で可能になりました。そのような診療情報の活用支援例として、診療に関連した情報を一画面に集約し、治療内容とその結果としての検査値の変化などをグラフ化して、全体の概要や経過上の変化などを容易に把握できるシステムもできております。(図)

一方、このようなシステムの障害等により診療に影響が生じないように、日夜、システムの稼働状況の監視ならびに保守管理を行うとともに、電子化された診療情報を遠隔地にバックアップすることにより大規模災害等によるデータ喪失に対する備えも講じておりますので、ご安心いただければと思います。

医療情報部は今後新しい情報技術を積極的に取り入れながら、大学病院の安全で質の高い効率的な医療の提供を下支えする部門として頑張っていきたいと考えております。皆様のご理解とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



ホットなニュースをご紹介します

山/大/病/院 NEWS

Part 2



超音波センター有吉技師が最優秀賞を受賞

超音波センターの有吉亨臨床検査技師が、第26回日本心エコー図学会学術集会の「JSE 2015 Imaging Award for Sonographers」で最優秀賞を受賞しました。

同賞は美しい画像、珍しい画像、説得力のある画像などを競うもので、有吉技師は「Severe AR due to sucked flap」の演題にて発表し、裂けた大動脈の内臓が左心室内に逸脱する比較的珍しい症例において通常の2次元心エコー図に加え、3次元心エコー図を用いることで客観的にわかりやすく美しい画像を描出した点や臨床的な有用性において高く評価されました。

「この度は、超音波センターの技師・医師および心臓血管外科の医師の方々といったハートチームに所属する皆様のご協力により、このような賞をいただくことができました。チーム医療の一員として、より臨床診断に有用な画像を提供していきたいと考えております」と有吉技師から受賞の喜びが語られました。「画論 The Best Image 2014」超音波部門(心臓部門)最優秀賞受賞に続いての快挙で、今後更なる活躍が期待されます。



最優秀賞受賞の有吉技師(手前)と和田検査部副部长

病棟リレー

各病棟を紹介します！

1 病棟 7 階西

先日、患者さんとの「卓球大会」を開催しました。患者さん、ご家族の笑顔に、スタッフ一同、楽しい時間を過ごすことができました。（この写真は看護の日写真コンテストで優秀賞を受賞しました）



1 病棟 7 階西は、主に整形外科病棟（52 床）で、運動器（骨・関節や脊椎などの骨格とそれを動かす神経・筋肉・靭帯など）に疾患のある患者さんが入院されています。看護師 32 名、看護補助者 5 名がおり、看護師のうち 8 名が「男性看護師リナースマン」で、院内でも多い部署です。女性看護師に負けず劣らず、きめ細やかな心配りと優しく丁寧な対応に、患者さんから

もうれしいお言葉を頂いています。術後の筋力・体力低下がある中で歩行練習などの理学療法は、患者さんにとって大変不安なものです。男性看護師が傍で見ていくれるということは、患者さんにとっても大きな安心感につながるようです。

今年度から看護部で導入している「ペアラウンド制」についても、安全・安心な医療提供をめざし、スタッフで検討を重ねながら取り組んでいます。「ペアラウンド制」は、看護師が 2 人 1 組で患者さんを受け持つことです。ペア看護師同士のコミュニケーションが活発になり、その場で常に確認・ディスカッションをしながら、看護を提供しています。そんな中で、看護の質の向上をスタッフ自身も実感しているところ です。

また、7 階西では日勤朝の情報収集後、担当の患者さんへ『挨拶ラウンド』を行っています。その際、「ネームプレート」をテーブルに置き、今日の看護師であることを伝え、患者さんの検査や外来受診など、その日のスケジュール確認を行います。終業時には、やり残した仕事はないか、患者さんから依頼されたことがきちんとでき



整形外科の看護は、僕たちナースマンにお任せください！



ネームプレートを置いて、今日の担当看護師であることを伝えます。

ているかを確認しながらネームプレートの回収をし、看護師自身の責任をしっかりと果たす努力をしています。患者さんからも「〇〇さん」と名前と呼ばれることが多くなりました。今後もより一層安心して入院生活を送って頂けるよう頑張りたいと思います。

毎週金曜日は、診療連携室の看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）の方と退院支援カンファレンスを行っています。それぞれの患者さんに合った、一番良い退院の在り方を検討し、そのために必要な情報をスタッフ間、他職種間で共有するための貴重なカンファレンスです。診療連携室だけではなく、リハビリテーション部、薬剤部、こころと体のサポートチームなど、他部門他職種との連携も不可欠であることは言うまでもありません。多くの先生方のお力を借りながら患者さんひとりひとりに合ったできる事を常に考えていきたいと思っています。

安心した入院生活を送れるよう、看護師をしっかりサポート。



4 名の看護助手は、看護チームに属し、看護師とともに、搬送業務だけではなく、清潔ケアや排泄ケアなどの看護ケアなどをチームの一員として一緒に行っています。患者さんとのコミュニケーションも取りやすくなっており、これも患者さんにとっての安全、安心につながっていると思っています。

後藤師長より一言

今年度、5 名の新人看護師を迎えました。ペアラウンド制の暖かさや安心感を実感しながら、自信を持って成長できるように、全員で支援していきたいと思っています。

栄養治療部
季節のレシピ
recipe

そろそろ新生活にも慣れてきた頃でしょうか。飲み会やゴールデンウィークなどで食生活が乱れていませんか？

Today's menu

沢煮椀

この時期は新ゴボウが出回る時期。病院の食事でも出している沢煮椀を紹介します。ゴボウは歯ごたえがあるのでよく噛むようになり、食物繊維も多いため血糖や腸にもいい影響を及ぼします。また、具たくさん汁として野菜がたっぷりとりれる一品です。

〈糖尿病と食事について〉

糖尿病は、生活習慣病といわれるだけあって、生活や食事と密に関わっています。忙しさを理由に早食いしたり食事を抜いたりしていませんか？意外と見過ごされがちなのが口の中。糖尿病の合併症として最近では歯周病もあげられるようになりました。6月は歯の衛生週間でもあります。しっかり噛んで美味しく食べましょう。

栄養成分 1人分 エネルギー… 90kcal
塩分…………… 1.2g



材料 4人分

- ベーコン…………… 40g
 - ゴボウ…………… 1/3本
 - 人参…………… 1/3本
 - 生椎茸…………… 2枚
 - ほうれん草…………… 40g
(三つ葉や豆苗なども可)
 - 大根…………… 100g
 - 卵…………… 1個
 - 油…………… 少々
 - かつおだし汁… 4カップ
 - 塩、醤油、コショウ
- ※他にえのきだけやキノコ類、筍などを入れてもおいしい

作り方

- ① 根菜類は5cmぐらいのせん切りにする。ゴボウは水さらしであく抜きし、ほうれん草はさっと茹でて水気をしぼっておく。ベーコンも野菜に合わせて切る。
- ② 鍋にだし汁をいれ、ベーコン、ゴボウ、人参、大根をいれ、ひと煮立ちしたら、弱火で柔らかくなるまで煮る。
- ③ 卵は薄焼き卵を作り、これもせん切りにしておく(錦糸卵)。
- ④ 塩小さじ1/2、醤油小さじ1で味を調える。
- ⑤ 器に盛り付け、茹でほうれん草、錦糸卵を散らし、コショウをふって出来上がり。

©監修：管理栄養士 有富早苗 福田有子

ホットなニュースをご紹介します

山/大/病/院 NEWS

Part 3

NEWS

がん病態栄養専門管理栄養士に認定

このたび栄養治療部の藤井愛子さんが、「がん病態栄養専門管理栄養士」に認定されました。

がん患者さんには、病気の影響や治療にあわせた栄養管理が大変重要です。「がん病態栄養専門管理栄養士」は、がん患者さんの栄養管理や栄養療法について、高度な知識と技術を習得しており、治療において食と栄養の面からサポートします。本院では有富早苗栄養治療部副部長に続いて2人目の認定となりました。

藤井さんは「がん患者さんの治療に貢献できる栄養管理を心がけていきたいです」と今後の抱負を語りました。



栄養治療部の藤井さん(左)と有富副部長

NEWS

「看護の日」記念行事を開催しました



田口病院長の挨拶

5月15日(金)、外来棟1階ロビーと2階エレベーター付近にて「看護の日・看護週間」に関連した「看護の日」記念行事を開催しました。1階ロビーで行われた記念式典では、田口病院長の挨拶に続いて、看護部の皆さんへのお祝いと感謝の意を込めて猪上看護部長へ花束贈呈が行われました。

また、2階エレベーター付近の展示コーナーでは、それぞれの部署で撮影・作成した写真、川柳、「自慢できる看護」をテーマにしたパネルの展示を行い、田口病院長が優秀作品を選出しました。式典で優秀賞が発表され、受賞した部署には記念品が贈られました。

式典後、メディカルスタッフの協力のもと、患者さんや来院された方を対象に記念グッズの配布、健康チェック、医療・栄養・福祉の相談、介護用品の展示、認定看護師による血糖測定、手洗いチェック、ハンドマッサージの実践・指導が行われ、小さな看護師さんコーナーでは来院された子供さんに白衣を着てもらいました。多くの患者さんや来院された方が参加され、盛況のうちに終了しました。



小さな看護師さんコーナー



相談コーナー



手洗いチェックコーナー



栄養相談



編集後記

表紙は看護の日記念行事にて、病院長と看護部長、看護師長たちとの1枚です。いつも笑顔であたたかい看護を提供して下さる看護師さんたちに感謝を込めて。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。
FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
TEL 0836-22-2007 URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>